

療養場所の違いに応じた認知症者のエンドオブライフケア充実に向けての調査研究
－COVID-19 流行の影響も踏まえて－

研究分担者 平川 仁尚 あいち健康の森健康科学総合センター健康開発部長

研究要旨：

本年度の研究の目的は、COVID-19流行が認知症患者の精神状態に与えた影響を明らかにすることであった。認知症ケアに精通した専門家24名を対象にオンラインインタビューを行い、逐語録にした後に質的内容分析を行った。その結果、Personal Protective Equipment (PPE) への恐怖、孤独、隔離に対する不満、家族によるサービス拒否の4テーマが抽出された。認知症患者は、COVID-19に対する理解が乏しいために、しばしば感染予防対策により精神的に多大な苦痛を感じていた。本研究は、今後の新興感染症の感染拡大に備えた、認知症の家族や医療・介護職のための認知症ケア指針の策定に資するであろう。

A. 研究目的

様々な療養場所において、認知症の緩和ケアおよび自己決定支援がどのようになされているか、実施する上で障壁となっている要因は何かを明らかにすることであった。本年度の研究の目的は、COVID-19流行が認知症患者の精神状態に与えた影響を明らかにすることであった。

B. 研究方法

重度の認知症患者に関する緩和ケア技術と自己決定支援の2大テーマで質的調査を行ってきた。本年度は、COVID-19による影響に焦点を当てて分析を行った。

対象者のリクルートは、認知症ケアに精通した専門家（医師、看護師、リハビリテーション、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー）の便宜的サンプリングにより行い、最終的に24名となった。インタビューは、Zoomを用いてオンラインで個別に実施した。逐語録にした後に質的内容分析を行った。

（倫理面への配慮）

インタビューには、申し出によりいつでも該当部分を削除できることを伝えた。

C. 研究結果

①Personal Protective Equipment (PPE) への恐怖

病院や施設の認知症患者は、スタッフが着用しているPPEをみて怯えていた。

②孤独

認知症患者は、スタッフや家族とのソーシャルディスタンスにより孤独を感じていた。ひょっとしたら入院や施設入所により本人と会えなくなるのではという不安から入院や入所に慎重になっている家族もいた。オンライン面会も広く行われたが、認知症患者にとっては家族と会っている実感はなく、かえって混乱している人もいた。

③隔離に対する不満

入院中や施設入所者がCOVID-19に感染すると隔離や外出制限を余儀なくされていた。認知症患者の中には、隔離されている理由を理解できず、不満を表出し、落ち着きがない様子であった。

④家族によるサービス拒否

家族の中には、本人がCOVID-19を移されてしまうことを恐れ、本人の同意のあるなしに関わらず、訪問サービスを中断してしまうケースもあった。

D. 考察

認知症患者が感じていた辛さを抽出することができた。認知症患者は、COVID-19に対する理解が乏しいために、しばしば感染予防対策により精神的に一般人と比べて苦痛を感じていた。本研究は、今後の新興感染症の感染拡大に備えた、家族や医

療・介護職のための認知症ケア指針の策定に資するであろう。

E. 結論

COVID-19流行が認知症患者の精神状態に与えた影響を明らかにすることを目的とした、認知症ケアに精通した専門家を対象とした質的研究により、認知症患者がCOVID-19禍で受けた特有の精神的苦痛を言語化することができた。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Kojima K, Hirakawa Y, Yamanaka T, Hirahara S, Okochi J, Kuzuya M, Miura H. Challenges faced by older people with dementia during the COVID-19 pandemic as perceived by professionals: A qualitative study with interviews. Psychogeriatrics 2024 in Press.

2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし